青年国際交流事業により期待される効果とその測定方法（イメージ）

資料４

大項目	中項目	小項目	具体的な内容（定量）	具体的な内容（定性）	根拠資料・データの所在	検討の方向（案）
外交的効果	国対国の関係 （日本と相手国）	各国との事業の位置づけ		首脳会談合意 共同事業、各国との合意	首脳会談合意文書 各国との経費負担	○資料に基づき、事業の意義・重要性について、定性的に評価する。
		相手国政府の事業への評価		首脳会談共同声明等 表敬訪問等の対応者 外国政府関係者による評価の声 行事への大使館の出席レベル	共同声明等文書 訪問時対応者に関する記録 外国政府関係者の評価の記録	○資料に基づき、事業に対する相手国政府の評価の高さについて、定性的に評価する。
		事業による日本イメージ向上 （＝事業の広報・認知度）	メディア報道の規模・内容等 各国での事業への応募者数		新聞、テレビ報道の記録 各国政府／大使館に確認必要	○報道記録について定量的に測定（可能であれば金額換算も） ○事業応募者数も可能な範囲で把握する。
	民間外交の観点	親日家の形成	外国人の事業参加者の親日変化 派遣日本青年と現地の人の交流		外国人参加者数、アンケート調査結果 日本青年派遣時の相手国での交流人数	○アンケート結果から変化を定量的に測定 ○参加者と相手国での交流人数を把握 ⇒これらに基づき評価
		日本人の相手国理解者の増加	日本人の事業参加者の相手国理解 招へいを通じての交流人数		日本人参加者数、アンケート調査結果 外国青年招へい時の日本での交流人数	○アンケート結果から変化を定量的に測定 ○参加者と日本での交流人数を把握 ⇒これらに基づき評価
		親日家のネットワーク形成 （人数、質）	事後活動組織の数 事後活動組織の参加者数		日本青年国際交流機構データ 日本青年国際交流機構データ	
		事業参加後の交流の継続・拡大 （国際交流、途上国支援　等）	事後活動の情報	事後活動の情報	日本青年国際交流機構データ	○データから、組織数、参加者数、組織率、活動数等を定量的に測定する。 ○定量化できないものについては、定性的に説明する。
		事後活動組織の組織率	事後活動組織の存在の有無 事後活動組織で把握される実数		日本青年国際交流機構データ 日本青年国際交流機構データ	
		事後活動組織の親日的活動	年間の活動数	具体的事例		
		事後活動組織の大使館との連携	年間の連携事例数	具体的事例	事後活動組織情報／各国大使館情報	

人材育成	人格的側面	異なる意見、価値観を理解する力 コミュニケーション能力 積極性 国際的視野の広がり	本人評価 （事業終了後アンケート） （既参加者アンケート） （一部指導官による測定結果 （IDI等)がある）	指導官等による評価 本人による記述	・事業終了後アンケート調査結果 ・既参加者アンケート調査結果 ・指導官らによる論文、記録、評価等 ・「ターニングポイント」等の本人記録	○直後のアンケート、既参加者のアンケートから、定量的に測定。 ○指導官等の評価等については、定性的に評価。 ○他に、自らの留学経験と比較したアンケート調査の実施が考えられる。
	技術的側面	語学力 企画力・実行力 プレゼンテーション力				
	社会貢献	社会貢献への意識の変化				
		社会貢献／事後活動の実施状況 内閣府事業への協力	把握されている活動数・規模 人数	実施されている内容 協力の内容・成果	日本青年国際交流機構資料	○活動実績は、資料から、一定期間における参加人数・活動量の定量化を試みることが考えられる。
	現在の職業・受賞	既参加青年の職業・実績 既参加青年の受賞歴		本人等からの情報提供	本人や事後活動組織からの情報提供 （日本青年国際交流機構資料）	○厳密な比較分析は非常に困難だが、ある程度の比較を試みることは考えられる。
国際ネットワーク	事後活動組織	加入者・OBの組織率 活動分野／回数／頻度／規模	加入者 実際に連絡が取れる人数 活動の回数・規模	活動内容	日本青年国際交流機構資料	○資料に基づき、組織率等について定量的に把握。 ○なお、活動実績については、上述のとおり。
	個人的なつながり	個人間の交友や連絡	個人間の交友・連絡の頻度等	事例等については一部記録あり	「ターニングポイント」等に一部記載	○網羅的な把握は困難か